

教育目標			夢や目標をもち「生きる力」を育む心豊かな生徒の育成					
重点目標			東中しぐさ(心)の確立 → 和文化と心の融合					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校運営協議会
学力の向上	基礎・基本の徹底 確かな学力の向上	①基礎的、基本的な知識・技能を習得する ②定期テストの結果を分析し、効果的な学力向上策の実施する	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(30%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①小テストなどの評価で適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目の内容などに対する質問がしやすいという回答が80%以上になる。	B	関連するアンケート項目において、「学習の成果を適切に評価してくる」ということについては、生徒・保護者ともに去年と比べ、微増ではあるが、85%となっており肯定的な意見となっている。「先生に質問しやすい」という項目については、60%程度で、目標に達成できていない。何を質問してよいのかわからない生徒も見受けられるので、自己分析を行い、どこができていないのかを明らかにしていくことが必要である。	基礎・基本の徹底を行うために、小テストや課題を行わせ、引き続き声かけなどを行い、できていない箇所を丁寧に説明するなどして生徒に接する。また、問題等でできていないところを授業やテスト返却の際、より意識して明確にしてい。業間では、授業内容について先生に質問する時間確保が難しいため、別の枠で生徒が先生に分からない事を質問する時間をつくる(テスト1週間前の完全下校までの放課後学習など)工夫が必要である。	基礎基本の定着と課題学習への対応のための授業改善が課題と考えられる。生徒のできていない箇所を確認・点検し「学びに向かう力」を育成していく必要がある。「考える」「発表」の技法を工夫しアクティブラーニングの活用がより望まれる。授業における質問しやすい雰囲気や環境作りが大切である。
	学習習慣の定着 読書活動の推進	①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる	①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②図書館の利用者数が前年度より10%上回るようにする。	C	「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」という回答について肯定的な意見を持つ生徒は80%以上いることにに対し、保護者は70%に止まる。保護者から見て、家庭学習が適切に行われているか、生徒の「適切」が本当の意味での「適切」であるのか疑問が残る結果となった。 読書活動の推進では学校全体での朝読書の取り組み、図書館司書やライブラリーサポートとの連携から、学校の読書活動に肯定的な意見を持つ生徒・保護者は80%以上を超え今年度も一定の成果をあげている。しかし、生徒の図書館利用は20%弱にとどまっていることから、図書館を身近で気軽に利用できる存在にしていこうと課題となっている。	①教科担任と担任が連携して、課題の提出を厳しくチェックする。 ②全ての教科において授業での図書館の利用を積極的に行う。	学力は生徒の財産となる。家庭学習を定着させるための家庭との連携、平日課題・休日課題等の工夫・改善を今後も継続して行って欲しい。「しっとこ東中」は今後も継続して改善を重ねながら、よりわかりやすい冊子づくりに努めて欲しい。読書活動においては、生徒会図書委員会・学校司書・ライブラリーサポートとの連携から一定の成果をおさめている。生徒の図書館利用率の向上に努めて欲しい。
	指導方法の工夫改善 言語活動の充実	①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業における課題発表やスピーチの積極的な取り組み	①電子黒板や実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定する。	①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教え方にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の割合が85%になる。 ③定期テストで記述問題を含むテストを作成し生徒の考えを引き出す工夫に努める。	B	普通教室にICT機器が設置されたことにより、さまざまな場面で手軽に活用できるようになった。また、グループ学習など、多様な学習形態を取り入れることで、生徒が意欲的に学習をしている。今後は、生徒の理解をより深めるための授業研究が必要である。	①授業改善のための研修(ICT活用法、アクティブ・ラーニング)を行う。②教員間で、より授業研究ができるような公開授業の方法を検討する。	普通教室にICT機器が設置された環境を有効活用して欲しい。アクティブラーニングの工夫や毎時間めあてを提示し、生徒につけたい力を明確にしていく授業展開を継続して行って欲しい。ICT教育の充実を図るためには、教員間の連携や教員の研修が必要不可欠である。縦・横の連携を図り、教師自らが積極的に研鑽を積み、意識改
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	不登校生徒数を減少させる	不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実行する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。	①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ②生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている。」と回答する生徒が80%以上になる。	B	生徒アンケートより、「学校へ行くのが楽しい」と回答する生徒が8割を超えていたが、前年度より減少していた。「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した生徒は80%を超えており、前年度より増加していた。	積極的に家庭訪問を行い、生徒、保護者との関係づくりをすり。放課後登校や別室登校など個に応じた対応を心がける。また、関係機関との連携を密にし欠席数を減少させる対策を講じる。さらに、学校が楽しいと思える雰囲気作りに取り組む。	不登校問題は全国的な課題である。要因は様々で複雑化しており、個に応じた対応がさらに求められる。教育相談係、学年会等の情報の共有と家庭背景を視野にいれた家庭との連携強化は必要不可欠である。関係機関との連携を今後もさらに図り、不登校0を目指した学校づくりに向けて地域・保護者・学校が一体となり取り組んで欲しい。
	問題行動への対応	問題行動を起こさせない指導体制を確立する	「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。	「ルールやマナーを教えてもらっている」と回答する生徒が80%以上になる。	B	生徒はルールやマナーについてしっかり教えてもらっていると感じているが、保護者アンケートより「学校は自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えている」というのは80%を下回っていた。	「みそあじ」を徹底するために、引き続き各学級で啓発する機会を増やす。組織的な対応をするための考え方などを若手の教職員に伝達をしていく。また教職員が連携して問題行動に対応していく。	学校の重点目標である「みそあじ」の徹底が望まれる。組織的な対応の確立に向けた若手教員の育成は必要不可欠であり、組織体制の見直しを図る必要がある。また、今後も保護者・生徒との信頼関係の構築を図り問題行動の未然防止に努めて欲しい。
	道徳教育の推進	豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる	ローテーション授業を行い、担任だけでなく全教員の実践力の向上をはかる。	各学年ごとに、年1回の公開授業を行う。	B	担当者会を定期的に持ち、ローテーション授業を学年の枠にとられずに学校全体で取り組めるようになってきた。今後は、教科化に向けて、授業づくりや評価の仕方などの共通理解を学校全体で図るようにする。	ローテーション授業では、資料や指導案を検討する時間を確保するなど、内容の充実を図り、授業力向上につなげる。教科化に向けて、授業づくりや評価の仕方の校内研修を充実させる。	ローテーション授業の定着が図られ、学校全体で取り組めている。いじめ防止に繋がる「心の教育」の充実を図っていくことが大切である。教科化に向けた校内研修体制の確立を図って欲しい。
	健やかな体づくりの推進	①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる	①欠席調査を毎朝行い、感染症の拡大防止に努める。 ②保健だよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。	①集団感染0を達成する。 ②保健だよりを月1回以上発行する。	B	①は、グレードアップ月間を活用し手洗いうがい等の啓発や、教室の換気を行う取り組みをしている。「風邪調査」の実施も予定している。②は、保健だよりは毎月発行しホームページにも掲載されている。保健の授業でも啓発を行い目標を達成することができた。③は、給食に伴い保体委員会を保健委員会に改正し、専門委員会として積極的に取り組んでいる。栄養教諭と連携を取り、給食センターへ見学に行ったり、給食・食育の充実を図る努力をしている。残食等の課題があるため、継続し生徒・教職員共に食育の意識を高め取り組む。	引き続き、保体の授業等や保健だより、保健委員会とも連携を図り「感染症予防」や「健全な生活習慣について」の啓発について取り組む。同様に、給食に関する取り組みや食育に関しても、保健委員会の生徒を中心に、栄養教諭や保護者、地域と連携を取りすすめていく。例えば、食育の情報発信を充実させるため、毎月発行の保健だよりや給食だよりは、保健委員会の生徒と連携し啓発する。	生徒会活動の取り組みであるグレードアップ月間や保健授業等を活用し、生徒の意識改革を図ることが大切である。保健だより、給食だより等の情報発信の啓蒙活動を行い、給食指導・食育指導の充実、体力向上に向けた取り組み今後も継続して行って欲しい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する	①学校だよりを年間20部以上発行し、学校掲示板に掲載する。 ②学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ③「しっとこ！東中」を有効的に活用する。 ④保護者メール配信を積極的に行う。	①学校だよりを年間20部以上発行する。 ②学校のホームページを月3回以上更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」という目標は、ほぼ達成できたと言える。また、学校だよりも年間20部以上の発行は難しそうである。	B	ホームページは頻繁に更新を行っており、メール配信も学校行事の案内に活用するなど、積極的な情報発信に努めている。保護者アンケートでは、「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」という目標は、ほぼ達成できたと言える。また、学校だよりも年間20部以上の発行は難しそうである。	学校だよりや学年通信を保護者に渡していない生徒も少なくないと思われるので、お知らせのメール配信をするなどの工夫が必要かもしれない。さらに職員にも学校だよりやホームページ更新時に周知をしていくことで、終れを利用して生徒にも更新内容を知らせることができると思われる。	情報発信は、保護者・地域との絆づくりでもある。今後も学校ホームページのより見やすい・わかりやすいホームページの作成と定期的な更新に努めて欲しい。保護者・地域に学校への理解を深めるためには、正確で積極的な情報発信を行っていく必要がある。
	学校運営への市民参画の推進	東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化をはかる	「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力をPTA・地域に呼びかける。	①「サタスタ東」への生徒登録者が150人を超えている。 ②ボランティアスタッフの登録者数が70名を超えている。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	B	①の登録生徒数については、今年度101名で目標を大きく下回っている点が課題である。 ②、③については前年度と変わりがなく、東中ファミリーサポーターズ等の活動が保護者や生徒に十分周知されていることがわかる。	サタスタ東登録者の目標達成のために、三者懇談や教育相談の機会を利用して呼びかけることを強化する。また、部活動引退時の3年生はもちろん、どの学年でも年間を通じて随時追加登録ができることを知らせて登録しやすいようにする。保護者に対しては、学校だより等のほかメール配信などでも直接的に案内をかける工夫をする。	コミュニティ・スクール導入から2年が経過した。東中ファミリーサポーターズとの連携をさらに図り、各サポートとの協力体制が課題と思われる。今後も学校活性化に向けた開かれた学校づくりを目指し、保護者・地域を学校に巻き込み、共に学校運営に参画していく意識を向上していくことが大切である。
	安心な学校づくり	避難訓練を徹底し、安全教育の取り組みを行う	学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。	学期に1回避難訓練及び安全教育を行うことで、生徒の安全に関する意識を高める。	B	避難訓練は、今の内容で生徒の学校アンケートも90%以上が肯定意見だが、安全教育に関しては、交通事故や下校の様子などにおいて改善の余地がある。	学期に1回の避難訓練は引き続き行い、安全教育は交通ルールや下校指導など行っていく。	教職員の危機管理に対する意識改革を行い、安全・安心な学校づくりに努めていって欲しい。
各 学 校 園 で 特 に 取 り 組 み た い 課 題	キャリア教育の推進	①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する ③ボランティア活動を実施する	①進路学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中合同の行事を行う。2年生で高校訪問を行う。 ③夏休みの清掃活動を呼びかける。	①計画的に進路学習ノートを活用する。 ②小中、中高の十分な交流をはかる。 ③夏休みの清掃活動の参加率が全校生徒の20%以上になる。	C	小学校との連携は行っているが、高等学校との連携は学区拡大により難しい状況にある。キャリア教育＝進路指導であるとすれば、保護者の多くは進路指導＝高校入試になっているはずで、キャリア教育という点が重視されにくいのが現実である。キャリア教育から進路指導へ1・2年3年と意識の積み上げが必要ではないか。	中高の連携は、学区が広がり、地域の高校という側面が薄れていく流れの中で、実際どのように進めるのかは難しい状況にある。重点項目自体を考え直した方がよい。高等学校へのオープンスクール参加はかなり定着してきている。	キャリア教育における課題対応能力・キャリアプランニング能力の育成が生きる力に繋がる。進路指導を1年生段階から計画的に行い、3年後、10年後を見通した指導計画が必要である。今後も教員の資質向上を図りながらキャリア教育の推進に努めて欲しい。
	特別支援教育の推進	①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する	①教科担当の意見を取り入れ、個別にアセスメントシートを作成する。 ②月1回の開催を原則とし、必要に応じて随時ケース会議を開催する。	①個別の指導計画に基づき、「生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた指導に努めている」の肯定的回答が80%以上となる。	C	①通常の学級に在籍する生徒の個別の指導計画を作成する際、力量があがっている教師が増加した。一方で、経験が少なく慣れない教員もあり、二極化が見られる。 ②合理的配慮や、支援の必要な生徒の相談窓口が確立されておらず、対応を協議するシステムが明確でないため、混乱する事例があった。	①合理的配慮や個別の指導計画・支援計画等、時代のニーズに即した研修を取り入れる。 ②特別支援関係につながる相談窓口と支援体制を協議していくシステムの構築(週1回の教育支援委員会を、よりレベルアップした組織) ③特別支援教育コーディネーターの複数配置による、きめ細やかな対応	障害者差別解消法が施行された背景を踏まえた合理的配慮が必要となり、教職員の意識改革、研修体制の確立が大切です。また、個別の指導計画・アセスメントシート等を活用し生徒支援に繋げていって欲しい。関係機関との連携をさらに図り、今後も教育支援係、教育支援委員会やケース会議を必要に応じて行い、支援体制の確立を目指していく必要がある。
	子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	①Q-Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う。 ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる	①年2回Q-Uを実施し、学級の現状を把握する。 ②リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③月1回部活動集会を実施する。	①各学年で抽出クラスを決定し、学年全体でQ-U結果向上のための意見交換を行っている。 ②夏期休業にリーダー研修会を実施し、リーダー育成を推進する。月1回専門委員会を行っている。 ③月1回の部活動集会を実施し、各部活動での意識を高める。	A	目標をおおむね達成することができた。アンケートについては、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」や、「先生は一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている。」等の項目が、生徒、保護者共にポイントが上昇している。また、どちらも「そう思う、どちらかと言えばそう思う」が90%を超えることができた。 具体的施策にある、「月1回部活動集会を実施する」については、顧問で協議した結果、必要に応じて実施するに変更したので、達成できていない。	Q-Uを実施することはできているが、「行事を精選し、教師が生徒自身と向き合う時間を確保する」については達成できていない。本年度は、給食が始まったこともあり、昼休みの時間も確保しにくくなった。今後、より一層行事の精選と、時間の確保が必要になる。 また、生徒自身が主体的により良い学校づくりができるよう、専門委員会の運営方法や、グレードアップ月間の内容について、生徒会が中心となって考えていく必要がある。	生徒と向き合う時間の確保が今後も大きな課題と思われる。Q-Uにおける検証・分析結果を今後も活かし、生徒一人ひとりに対応した「心の教育」の充実に向けて欲しい。個に応じたよりきめ細かな指導を心がけ、生徒の心によりそった教育の推進を図る必要がある。
	安全で快適な学校園施設の整備	①無言清掃を徹底する ②情報教育機器の整備を拡充する ③教育環境の整備を行う	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(31%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が80%以上になる。 ②③「図書館やコンピューター室が使いやすい声掛けや環境づくりをする。」の回答が80%になる。	B	図書館利用については給食が始まり自由な時間が減っているにもかかわらず数値としては横ばいであるので実質的には評価としては上がっていると考えられる。無言清掃に関しても生徒、保護者共々評価が上がっている。	給食で昼休みの時間が短くなったので昼の開館時間以外に本に触れる時間が設けられたらさらに利用率が上がると思われる。	立腰教育・無言清掃のさらなる充実を目指し、校内体制の確立を図る。また、立腰教育・無言清掃を今後も教育活動に生かし学校の活性化を図っていくことが大切である。図書館利用率の向上を目指して欲しい。
学校運営協議会総括			夢や目標をもち、心豊かな生徒の育成を図り、地域にささえられ、地域をささえる学校づくりを目指していく。					
次年度に向けた重点的な改善点			文武両道の精神のもと、不登校生徒0を目指し、和文化と心の文化を大切にした生徒の育成を図っていく。					